

## 第47回労働リーダーシップコース開催報告

金属労協組織総務局主任 上口 智子

「時代の求める労働組合の役割」を総合テーマに2015年10月5日から17日まで、京都・関西セミナーハウスにおいて第47回労働リーダーシップコースを開催した。北は栃木県から南は福岡県まで総勢39名の受講生が研鑽に励んだ。

## 10月5日ー開校式

篠笛（森田玲・玲月流初代）の奏樂で始まり、式辞として香川孝三校長（大阪女学院大学教授）、村田晃嗣名誉校長（同志社大学学長）が、コースの意義を述べるとともに、受講生を激励した。また主催者代表挨拶として相原康伸金属労協議長が挨拶に立ち、「深い議論をすると共に、人と人とのつながりを築く場としてほしい」「新たな自分を見つめ直す機会としてほしい」と述べた。その後、山本一志金属労協関西ブロック代表、石田光男副校長（同志社大学教授）から挨拶をいただき、最後に受講生を代表して、美野弘幸JFEスチール倉敷労組執行委員が決意表明を行った。なお、来賓の安藤よし子厚生労

働省政策統括官は公務による欠席のため、「このリーダーシップコースに参加される皆様が、12日間の講義で得た知識を我が国の経済社会の発展に向けて活かされ、金属労協が、今後も引き続き、日本経済の牽引役としての役割を大いに発揮されることを心から期待いたします。」とのメッセージを浅沼弘一金属労協事務局長が代読した。

## 研修生活でのある風景

朝は7時に駐車場に集合し、ラジオ体操から一日が始まる。ラジオ体操後は、周辺の散歩に出かける。セミナーハウスのすぐ横を流れる音羽川の砂防ダム、境内に触れると良縁が授かるという謂われの「八重垣」の石がある鷲森神社、秋には紅葉狩りの観光客で賑わう蔓殊院など散歩コースには事欠かない。セミナーハウスは比叡山の二合目付近にあるので、散歩コースによっては、行きは下り坂、帰りはきつい上り坂という場合もある。散歩初日は、恒例となっている砂防ダムに行き、記念写真を撮った。

研修の際に寝泊まりする部屋は、今

の時代、ひとり部屋が主流となっているが、労働リーダーシップコースは2人1部屋が原則となっている。受講生からは「初めて会った人と同室ということで戸惑いもあったが、同じ時間を共有することで、大人になってからでは作れない人間関係ができた」との評価も得ている。

合宿研修期間中の楽しみのひとつに食事がある。期間中、昼食、夕食には一度も同じメニューが出ない。また、過去の受講生アンケートで、野菜の充



ある日の朝食風景

実の希望が多かったこともあり、関西セミナーハウスでも工夫を凝らし、今年から朝食時に京野菜のサラダバーがお目見えした。地元修学院の農家と契約し、地元の野菜を仕入れているという。テーブルには、冬瓜、ソーメンカボチャ、京人參、ツルムラサキなどの野菜が並んだ。普段見慣れない珍しい野菜に、おかわりする姿も見られた。

研修期間中は、セミナーハウス内でほとんどのことが完結してしまうため歩く距離も少なく、運動不足になりがちである中、運動不足解消のひとつとして講義やセミナーの合間に卓球を行うことが多い。第47回も多分に漏れず卓球が大流行だったが、卓球台が1台しかないため、やりたい人が全員行うことができない。そこで、考え出されたのが会議用テーブルを使った卓球だった。テーブルの真ん中にネット代わりの三角柱に折った紙を置いた、本物よりかなり狭い台での卓球である。考案した受講生曰く、「狭い台のため本物の台でやるよりも難しいが、その分楽しさも増す」とのことだった。



## 特色あるプログラム

このコースは、ユニオンリーダーに必要な基礎知識を「縦：自分の歴史的背景を学ぶ」「点：自分の立っている場について学ぶ」「横：自分の住む世界の拡がりについて学ぶ」「深：自分の生きる基礎について学ぶ」の4本の柱にもとづくカリキュラムで全人格的な教育をめざしている。労働法や労使関係論など実践的な講義から、国内外の労働運動などの歴史的背景を学ぶ講義、職場の人間関係について考えるメンタルヘルスに関する講義など幅広いカリキュラムに加え、「圓光寺」で行う坐禅体験やセミナーハウス内にあるお茶室「清心庵」でのお茶室体験など日本固有のカルチャーに触れるプログ

ラムも実施した。圓光寺では、窓や扉が開け放たれた禅堂で足の組み方や手の組み方の他、視線の位置、呼吸法など禅を組む心得の指導を受け、およそ1時間坐禅を体験した。特別講演「経営と人間」では、株式会社村田製作所常任顧問・牧野孝次氏から「日本のモノづくり」のテーマで、日本のモノづくりのめざすべき方向性について講演を受けた。また講義の合間には、全員で鞍馬山散策にも出かけた。通常であればケーブルカーが運行しているため、体力に自信のない人はケーブルカーに乗ることもできたが、今年はこちらで改修工事中ということで乗車することができず、全員鞍馬寺までの約30分の道程を徒歩で登ることになった。

1週目の夜には、自由に議論し合う「討論会」も行った。討論会のテーマは、討論会委員で決定する。今回は、「女性組合役員の活躍について」「青年活動のあり方について」「組合員の組合活動への参加向上に向けて」など5つのテーマで議論し、最後に討議した内容を報告しあった。

## ゼミナール

当コースの重要な柱のひとつのゼミナールは、ものづくり産業という共通の認識のもと、労働組合・職場で直面する課題について指導教授や受講生同

士で討議を重ねながら解決案を探求する。5つのテーマに分かれ4回にわたる討議を重ね、最後にゼミナール毎にパワーポイントを使って発表を行い、成果を共有化しあった。

ゼミナールのテーマおよび主な討議内容は次のとおり。

◎香川ゼミ「労働組合と国際」  
21世紀国際社会における労働組合の役割

世界の拡がりの中で労働運動のあり方を追求すると共に、日本人としての国際感覚、国際理解の弱さを反省し、さらに国際社会における労働組合の使命、国際労働運動の責任と連帯について討議した。

◎石田ゼミ「労働組合と職場」  
職場からの新たな雇用関係の構築

〈全員で経営対策活動へ取り組むこと〉によって、「やりがい働きがいの醸成」「会社の維持・発展」「雇用の安定」につながるのではないかと、テーマに討議した。

◎中田ゼミ「労働組合と社会」  
仕事と処遇 納得性のある給与の決め方と水準

賃金制度と一時金決定方式、賃金水準を比較し、「賃金のありたい姿」を考察するとともに、課題と改善案について討議した。

◎富田ゼミ「労働組合と働き方」

ワーク・ライフ・バランスと多様な働き方

ワーク・ライフ・バランスの実現のための現状と要件の洗い出し、現状の把握をした上で、労働組合としてできることを討議した。また、労働組合における女性活躍推進の問題点を抽出し、女性役員の増加に向けての対策案について討議した。

◎上田ゼミ「労働組合と企業」  
グローバル化の時代、企業社会の変貌と労働組合機能

グローバル競争下の労使関係における労働組合の役割をテーマに、企業をとりまく経営環境、現状、国内雇用維持、ものづくり産業が発展するための人材確保に対して労働組合として何をすべきか討議した。

## 10月17日 閉校式

式辞として香川孝三校長（大阪女学院大学教授）が「皆さんは、これから、職場に戻って厳しい状況の中で、組合活動をしなければならぬ。ゼミナール発表を聞き、この期間みんなが悩み、解決を求めてきたことがよく理解できた。これからも、39名の修了生が連携をとりながら、様々な課題にチャレンジしていつてほしい」と激励し、全員に修了証書を授与した。主催者代表挨拶として浅沼弘一金属労協事務局長か

## 実行委員会

各ゼミナールから班長、副班長を各1名互選し、計10名で実行委員会を編成する。実行委員会の中から1名級長を互選する。コースは受講生の主体的な運営を基本とし、実行委員会がその中心となる。第47回コースの実行委員会メンバーは次のとおり。

級長／田中 強（コマツユニオン大阪支部）、副級長／田中篤史（シャープ労組奈良支部）、北川達人（JFE スチール福山労組）、上河内哲也（全本田労連）、長島崇之（古河電工労組日光支部）、実行委員／藤田博己（本田技研労組エンジニアリング支部）、小林佑介（パナソニックデバイス労組デバイス総合支部）、中村哲也（本田技研労組栃木研究所支部）、安井朋之（全労済大阪府本部）、信太雅喜（全本田労連）



実行委員会で議論する実行委員

## 受講生答辞より

田中 強／第47回コース級長（コマツユニオン大阪支部書記長）

「篠笛」の美しい音色で始まった本コース。緊張と不安に包まれていた事を今懐かしく思い出します。自己紹介もままならない状態の中、受講生全員で取り組んだ「貿易ゲーム」では、みんなが個性を存分に活かしながら知恵を出し、遊び心を持ったプログラムで、受講生の距離が一気に縮まった様に思います。

講義では多くの諸先輩方がこれまで築き上げてこられた労働組合の歴史についても学び大変重みのある内容に感銘を受けました。

週末には全員で鞍馬山散策に出かけ、痛みに堪えながら歩き続けた仲間をみんなで励ましあった事で我々受講生の絆はより強固なものになったと感じました。

2週目に入ってから意気投合する仲間も増え、各ゼミでの活動も熱を帯び時には時間を忘れて深夜までお酒を飲み交わしながら、ピンポン大会や組合活動に関する議論が出来た事もいい思い出となりました。

第47回労働リーダーシップコースを受講した我々39名の受講生は、ここで出会った全ての皆様への感謝を忘れる事無く強く結んだ友情をつなぎ、それぞれの立場で、自分が今なにをすべきかを考え組合員と家族の幸せの実現のために行動に移していきたいと思えます。

答辞を読み上げる田中級長



ら「この2週間には、いろいろな気づきがあったと思う。是非とも、39名の皆さんがそれぞれの持ち場に帰って、ここで学んだこと、得たことを実際の現場の中で活かしていただき、多くの皆さんに良い影響を与えていただきたいと思います。」と述べた。その後、ゼミナール担当講師の石田副校長（同志社大学教授）、中田運営委員（同志社大学大学院教授）、富田・上田運営委員（共に同志社大学教授）が挨拶に立ち、修了生を激励した。受講生代表としての答辞では、第47回の級長であるコマツ

ユニオン大阪支部・田中強書記長が2週間の思い出と今後の決意を表明、最後に「卒業の歌」を全員で合唱し、閉校式が終了した。

### 第47回コースを終えて

1969（昭和44）年12月に開設した労働リーダーシップコースも早、47回を終えた。1967年7月開設の旧東日本コースから数えると、49年の歴史になる。修了生も49年間で、2562名となった。この間、時代に合わせて講義内容や講義以外のプログラム

も改善を重ねてきた。改善案の元となるのが、毎回実施している受講生アンケートである。「受講した内容はどれも興味深かった」との好評価を受ける反面、「全体的に時間が不足しており、詰め込み過ぎと感じた」「ディスカッションの時間を増やしてほしい」との要望もあった。これらの意見をもとに、次回、第48回がより充実した内容になるよう、受講生に「貴重な時間を割いて受講した甲斐があった」と感じてもらえるよう、大学の先生方を交えた運営委員会で検討を重ねていきたい。



閉校式後の全員での記念撮影